

『和歌山大学観光学部設置記念論集』の刊行に寄せて

学長 小 田 章

平成20年4月、和歌山大学に第4の学部として《観光学部》が誕生した。既にその前年の平成19年4月に経済学部に関光学科を設置し、それを母体にしての設置であった。

私が本学に新学部設置を考えた事由は、平成16年に旧国立大学が国立大学法人へと一斉に衣替えすることを見据えての大学強化のためであった。その実現には学内外で幾多の課題・難題が想定されたが、他方、新学部の設置を歓迎する状況が国や地域に醸成されつつあった。こうした状況を勘案しながら平成16年の6月末に、私が学長就任以来定期的に行ってきた定例記者会見の席で、私見と前置きをしながらも《観光学部》構想を語った。これが、新学部としての《観光学部》設置に向けてのスタートであった。当時は法人に移行したばかりであり、学内の誰しもが《観光学部》設置構想に驚天動地の想いであったようである。唯、学外の反響は予想以上であり、この話題が伝わるや否や地元の各界からその真意を求められた。

こうして《観光学部》構想が船出をしたわけであるが、実現までの道程は決して平坦ではなかった。まず、学内での合意が必要であり、そのために委員会での構想審議を開始すると共に平成16年7月から文部科学省（以下、文科省と略す）交渉がスタートした。《観光学部》実現まで十数回の文科省交渉を行ったが、歴代法人支援課長をはじめ文科省関係者の皆さんには無理難題な要望にも関わらず、非常に真摯に対応して頂いた。このことに関しては私はじめ本学関係者一同衷心より御礼申し上げる次第である。勿論、文科省関係者以外にも《観光学部》設置には多くの方々から多大の支援を頂いている。このことは後述することとしたい。

さて、《観光学部》設置の経緯等その詳細は後に譲るとしてその目的・趣旨及び意義について簡単に述べておきたい。

《観光学部》設置の目的・趣旨：

《観光学部》設置の目的・趣旨は以下の通りである。

第一は、本学の存続のためである。第二は、オンリーワンの学部を設置するためである。第三は、「観光立国」を標榜する国策への寄与のためである。第四は、地域社会への貢献のためである。第五に、実践可能な地域再生モデルの構築のためである。そして、最後に第六として観光学の確立と世界的な観光研究の拠点作りのためである。

《観光学部》設置の意義：

設置の目的・趣旨は以上であるが、では《観光学部》設置の意義は奈辺にあるかである。大学の本義は、高度な研究を実施し、最高レベルの研究成果を挙げると共にその成果に基づく緻密な教育を実現し社会に有為な人材を輩出することにある。このことが高等教育機関存続の基本機能であり、果たすべく使命である。新設の《観光学部》は和歌山大学の一機関であり、その果たすべき使命・機能は他の学部と些かも違うことはない。従って、《観光学部》の設置意義は、観光に

関する高度な研究を実現し、それをベースにした質の高い教育を実施し有為な人材を輩出することにある。ややもすれば、昨今大学の機能として、実践的・実務的能力を有する人材輩出のみが喧伝される嫌いがあるが、高度な研究なくして高度な実践的・実務的能力を有する人材の輩出はあり得ないと私は考えている。その意味で、本学《観光学部》は、その設置の意義の一つとして《観光学》の確立を謳っている。明確な学問的研究の基盤なくしては、《観光学部》は「砂上の楼閣」に至るからである。観光研究の充実こそが我が国の重要施策の一つである観光立国のより一層の推進に至り、本学《観光学部》の存在意義が増すことになると確信している。このことは、この30～40年の間で惹起した「情報」、「国際」、「環境」、「福祉」、「健康」等、どの分野をみても明らかである。それらは研究機能の充実があって始めて社会での市民権を得てきたのである。観光についても同様であり、《観光学部》の成否は如何にして「観光学」を確立することが出来るかに依っている。

こうした理念の下で構想された学部であり、積極的な観光研究を推進することを観光学部教員にお願いしてきた。その成果として、《観光学部》設置から1年で『和歌山大学観光学部設置記念論集』が刊行されることとなった。本来、観光現象は包括性と多様性を有しており、狭い専門範疇をもってしては真の観光現象を把握かつ解明できない。本学《観光学部》の所属教員は少数ではあるが、様々な専門に依っており、その視点と優れた洞察力・構想力を駆使して観光現象を捉えている。現時点では包括性と多様性の全体を満足できるとは言い難くかつ寄せ集めの感もしないではない。しかし、個々の論文はそれぞれ興味を引くものでありかつ意義深いものであり、こうした個別研究を積み重ねていくことによって観光研究の統一化を図り、我が国における観光研究に貢献できるものと確信している。

それ以上に、本学《観光学部》が目指すところは、諸外国の観光研究先進大学の成果に学び、真摯に教えを請うことを通じて研究に邁進し、遠くない時期にそれらに肩を並べそして凌駕する時が早く訪れることを期するものでもある。観光研究の遅れを一刻も早く取り戻し、外国の諸大学と対等の立場で観光研究について議論し、研究交流を有することこそが我が国の観光推進を支える基礎となり、引いては有為な観光人材の輩出にも寄与することになると確信している。その意味でも、本学《観光学部》の『和歌山大学観光学部設置記念論集』の刊行は、非常に意義深いものであり、《観光学部》の設置を構想したものとして感極まる想いである。今後も教員諸氏は初心を忘れず、研究に邁進し、本学《観光学部》の発展と社会貢献に尽力されることを期待するものである。

最後に、《観光学部》の設置に際しては、学内外の多数の方々から温かいご支援を頂いた。その方々の氏名は後述するとし、ここではそのことを記して謝意のみを述べておくに留めたい。また、記念論集の編集に尽力された大橋昭一学部長、川端保至教授、大津正和教授、大道 事務長をはじめ《観光学部》教員及び職員に心から敬意を表したい。